

京のセントラルパーク、歴史と自然のストック

京都御苑の魅力を発信

京都御苑



NEWS

Kyoto Gyoen
National Garden
News



autumn

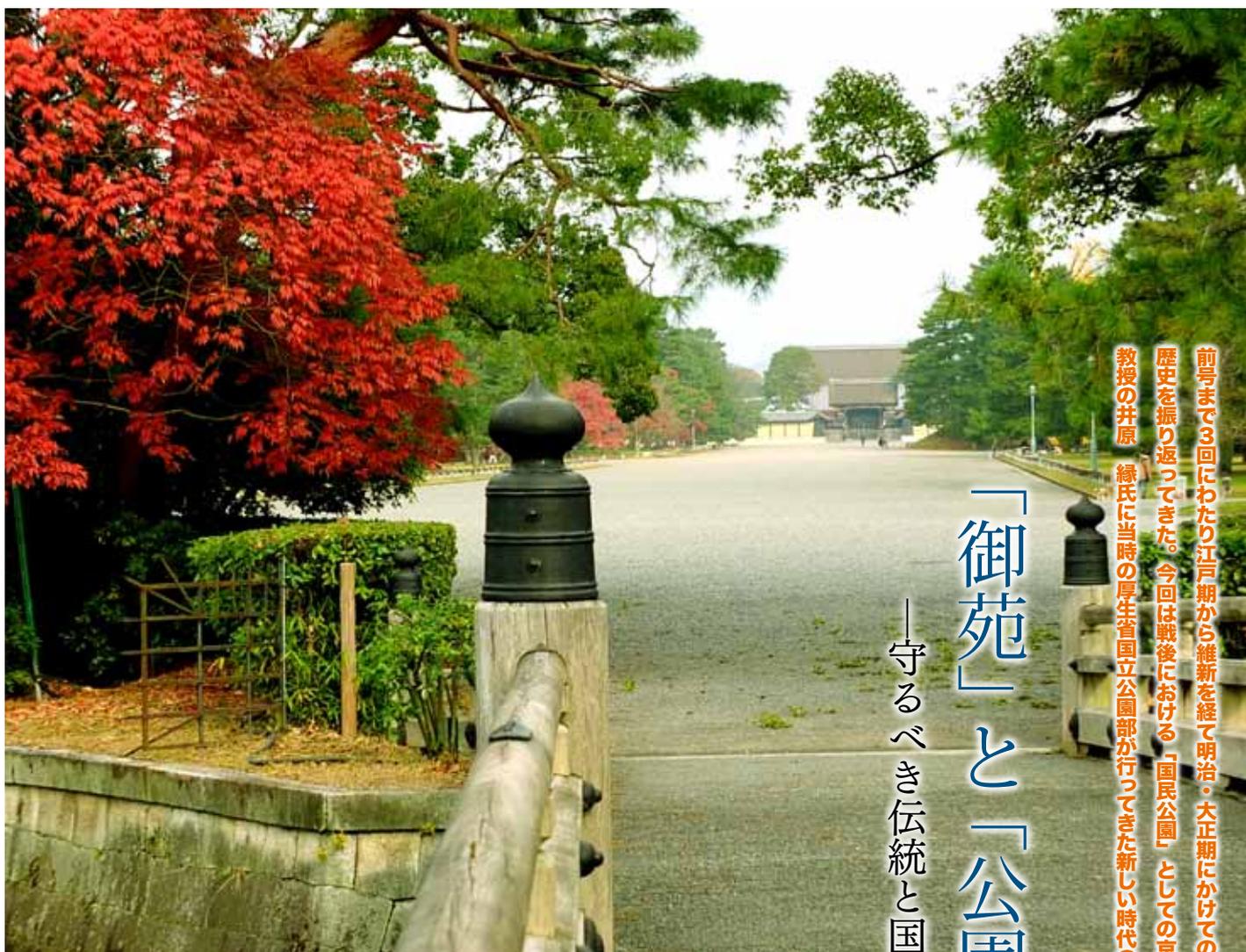
秋

第139号
2018.9.1

京都御苑ニュース

CONTENTS

- ▶「御苑」と「公園」
- ▶「きのこ」と繋がる生命のネットワーク
- ▶京都御苑の香りと縁
- ▶学生コラム —同志社大学—
- ▶Information



前号まで3回にわたり江戸期から維新を経て明治・大正期にかけての京都御所や御苑において繰り広げられてきた歴史を振り返ってきた。今回は戦後における「国民公園」としての京都御苑の成り立ちについて、奈良県立大学准教授の井原 縁氏に当時の厚生省国立公園部が行ってきた新しい時代の開かれた「公園」への試みを語っていただく。

「御苑」と「公園」

—守るべき伝統と国民への開放—

井原 縁

現在の京都御苑は、多くの人々が思い思いに憩い集う「公園」である。ただし、一般的な都市公園ではなく、「国民公園」という特殊な公園である。一九四七（昭和二十二）年十二月の閣議決定「旧皇室苑地の運営に関する件」に基づき、国民の公共福祉のために旧皇室苑地を開放して生まれた公園で、東京の皇居外苑（北の丸公園を含む）、新宿御苑、そして京都御苑の三苑地のみがこれに属している。

では、戦後間もない頃、なぜこの三苑地が「国民公園」の対象地に選ばれたのだろうか。いずれも非常に広大な敷地面積を有する旧皇室苑地であり、このことはひとつの決め手となったが、何よりも、これらの苑地がそれまでに歩んできた履歴の特殊性に拠るところが大きかった。当時の厚生省国立公園部の「国民公園」

九條池高倉橋から京都御所建礼門前的大通りを望む

行政に関する記録には、規模に加えて、次のような各苑地の性格が選定理由に挙げられていた。皇居外苑は、首都・東京の中心に位置し、国民の象徴としての天皇陛下が居る皇居の外苑であること、また旧江戸城跡であり、歴史ある類例のない独自の文化景観として世界に誇り得ること。新宿御苑は、近代日本を代表する名園で、戦前は観桜会・観菊会にのみ一部のみに限って入苑を許された禁苑であり、外交官を通じて対外的に有名であったため、将来は国家行事又は対外的催事等の会場として利用する可能性を持っていること。そして京都御苑は、古都・京都の中心に位置し、歴史遺産を多く含んでいる重要にして優雅な矩形の一郭で、御所で大正・昭和天皇の即位大札が挙げられた際は饗宴場設営の場ともなったことから、将来もそのような役割を担う可能性を持っていること、である。

前史において個々の苑地に付随していた性格は、具体の公園としての整備方針にも大きく影響し、その内容は三苑三様であった。特に京都御苑では、他の二苑地と比べると、レクリエーション利用のための公共施設整備が最も積極的に実施された点特徴的であった。昭和30年代の半ば頃にかけて、広場（富小路広場、今出川広場、饗宴場広場、児童広場、出水広場）、テニスコート、バレーボールコート等が次々と設置されたのである。京都御苑は、明治期の造成当初、民間においては「公

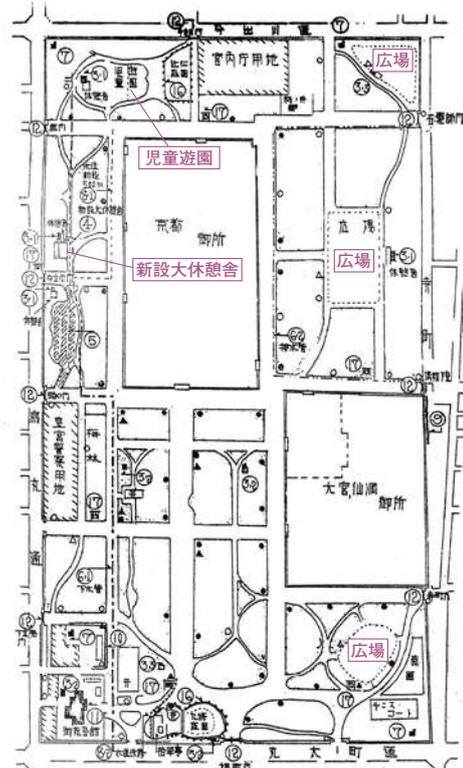
園」と呼ばれ、市民有志からの献木や献金が盛んに行われていた。このような京都の人々に開かれた「公園」的性格は、その後国家的儀礼を担う「御苑」としての整備が進められる一方で次第に弱まっていたが、途切れることはなかった。「国民公園」京都御苑における積極的な施設整備の背後には、このような前史において醸成されていた地域の「公園」的性格があったのである。

ただし、この施設整備が単純なものではなかったことは特筆しておきたい。これらの施設は「御苑」としての尊厳を損なわぬよう、設置場所は慎重に検討された。ここで、「御苑」としての尊厳を象徴する場所としてみなされていたのは、御所ならびに建礼門前大通り一帯であり、新たに設けられた施設はいずれもここからは目につかない周辺部に配されていた。同様の配慮は、当時の植栽整備・管理方針にもみられる。従来

の京都御苑の植栽はやや親しみ難い感があるとして、公園整備では梅、山吹などの花木類を新たに導入したが、あくまで御苑の尊厳を損なわないことを前提条件とし、さらに樹木管理においては、特に松の管理を御苑の景観主体として最重視した。松は、建礼門前大通り一帯の独特の風致景観を生み出す重要な存在であり、現在もここを中心に丁寧な維持管理がなされている。

その後も京都御苑には新たな施設が更新されていくが、「国民公園」整備当初のあり方に倣い、その配置には御所ならびに建礼門前大通り一帯の風致景観との調和が一貫して最重視され続けている。新しい時代の「公園」へと柔軟に変化しつつ、同時に大事に守り継承してきた「御苑」の特性が、この風致景観には込められているのである。

奈良県立大学地域創造学部
景観マネジメント分野 准教授



京都御苑整備計画図（『京都御苑管理方針』厚生省国立公園部京都御苑管理事務所,1958）

自然・いのちのつながり

「きのこ」と繋がる

生命のネットワーク

佐野修治



コウジタケ 傘の裏がヒダではなく丸い穴の管孔状のイグチ (猪口) の仲間 緑の草地に点々と大小の赤い傘を広げていた

日本国内のみならず、世界中から「御所」を訪れる人々が四季を通じて絶えません。その人種は多種多様でお国柄を表す容姿も言葉も様々です。京都御苑は地球規模で繋がる「ヒト」のネットワークの拠点でもあります。毛髪や衣類、靴などの持ち物や靴底の僅かな土などに付着した「きのこ」の胞子が、意図されず御苑に散布されている可能性もあります。条件が適せばある日突然「御苑新産種」の茸が次々と顔を見せる日が来るかもしれません。

近年、そんな地上での人的な交流に似た茸と植物との親密な関わりが地下でも日夜繰り返されてきていることが分かってきました。植物（生産者）と動物（消費者）、そして菌類（分解者・還元者）が、広大な地下ネットワークを介して多様に繋がって生きています。その様子の一端を御苑の「きのこ」を通して観てみましょう。

秋雨の頃は梅雨期同様、一斉に多彩な茸が姿を現します。松や楓の樹下に明るくオレンジ色の傘を広げるアカハツ（赤初）や、幼い頃に親しんだ絵本の童話に登場するイボテングタケ（疣天狗茸）はこげ茶色の傘に白い飾りを付けて草地に点々と姿を現し、時には大きな円形状に広がってフェアリーリング（妖精

学生コラム

京都と御物

同志社大学文学部文化史学科4回生
小林丈広ゼミ 森 真生子

「御物」。それは皇室が所有する宝物のことを指します。そのどれもが大変貴重なものですが、御物が国宝に指定されることはありません。なぜなら御物というのは、文化財保護法によって国宝・重要文化財に指定される物の「対象外」だからです。さて、こうした特別感があると見たくりますが、悲しいことにその機会はほとんどありません。しかしながら、その御物の一つである刀、「太刀 銘 国永 (名物鶴丸)」の写しは、京都の藤森神社で拝見することができます。名物「鶴丸」は、平安の頃に打たれ、明治時代に伊達家より天皇に献上された刀です。実際に藤森神社に赴き、目にした写しの鶴丸は、すらりとした細身で、しなやかな姿。本来殺生のための武器でありながらも美術品のように美しい様は、鶴丸という刀に込められた歴史を呼び起こすようです。本歌の鶴丸は、どのような雰囲気を纏っているのでしょうか。平成の終わり、そのチャンスがあるのではと少し期待してしまいます。



鶴丸(写し)のある藤森神社境内 (京都市伏見区)

京都御苑の香りと縁

武田 周子

本年六月九日〜十五日に京都御苑で「ふくしまウィーク」が開催され、「アロマの組香体験の講師を担当しました。日本の三大伝統芸能の一つとされる香道とアロマテラピーの和洋コラボ、遊び方も現代版にアレンジした内容です。香りを聞き分ける遊びである組香には代表的な源氏香を、香りは福島(会津)と京都に馴



京都御苑・拾翠亭での組香体験

染み深い精油をセレクトしたオリジナルバージョンを「拾翠亭」でお披露目したところ、二日間、四回限定の講座は満員御礼の状態でした。初日は快晴、二日目は小雨の天候が黄色や黄緑色など様々な色に変容し、茶室からの景色が香りと見事に融合してくれました。

今年も京都での開催となった福島震災復興を願うこのイベントですが、福島と京都は歴史的にも繋がりが深いことをご存知でしたか？震災の翌年、京都は相互交流宣言を結んでいる他、さらに今年も戊辰戦争から百五十年という節目の年でもあり、歴史を語る上で京都御苑は欠かせない場所です。私にとっても京都御苑は特別な場所です。母親が大病の為に長期入院を余儀なくされ、私が伯母の家で過

ごしたの幼稚園の頃。伯母は幼い私の不安と悲しさが少しでも和らぐように「お見舞いの帰りに御所に寄ろうね」と、立ち寄ることを日課としてくれました。

時は流れ、この京都御苑の地に再び足を踏み入れましたが、毎日見ている柔らかな景色や爽やかな木々の香りの記憶が鮮明に蘇った瞬間でもありました。イベント翌週十八日には大阪北部を震源とする地震が発生し、京都もかなり揺れました。そこへ今回のイベントで繋がった方々から安否のお心遣いを頂戴するなど……これも新たな御縁。母も伯母も今は既に他界していますが、私の中に残る記憶と共に、また新しい香りの出逢いへと繋がっています。

そんな香りのある京都御苑が私は大好きです。あなたの想い出の香りは何ですか？ 京都御苑で皆さまにも素敵な出逢いが訪れますように…… (AEAJ認定アロマセラピスト)



アカハツ 雨水を貯えた傘 徐々に緑青色に変色する



ムラサキナギナタタケ 緑の草地に林立する様は圧巻



イボテンガタケ 雨に濡れる幼菌と成菌 童話の名脇役



アズマタケ 傷ついた松の根に沿って発生した木材腐生菌

の輪)を描きます。同じ頃、傘の裏が管孔のイグチ(猪口)類の茸も多種類が発生します。美しい赤色の傘と黄色い管孔を持つコウジタケ(麴茸)や、芝生地にはムラサキナギナタタケ(紫長刀茸)が緑の中に紫色の絨毯を敷き詰めたように広がる景色は溜息をつくほどの美しさです。

また、地味な茸で目立たないアズマタケ(東茸)は発生源の松の樹の衰弱を教えてくれる樹木の代弁者として、発生現場の自然環境を知る有益な手掛かりになります。これらの「きのこ」と呼んでいる部分は植物の花の部分です。本体の「菌糸」は地下の土

また、地味な茸で目立たないアズマタケ(東茸)は発生源の松の樹の衰弱を教えてくれる樹木の代弁者として、発生現場の自然環境を知る有益な手掛かりになります。これらの「きのこ」と呼んでいる部分は植物の花の部分です。本体の「菌糸」は地下の土

や木材の中で様々な小動物やあらゆる植物の根と繋がりが合って暮らしています。姿形も様々で色とりどりの茸が地中でそれぞれ好みの植物と繋がりが、お互いに必要な養分を分かち合っているだけではなく、人類が構築して共有している高度なネットワークと同様に環境の情報までも共有し感知し合っていることが徐々に解明されています。自然豊かで身近な「京都御苑」で生物の三界(動物・植物・菌類)の生き物が助け合いせめぎ合い、生と死を繋ぎ合せて日々営んでいる生命の「輪廻転生」を観察してみましよう！ (京都自然観察学習会)

■イベントのお知らせ

京都御所の通年公開・仙洞御所の参観拡充

京都御所では、事前申込不要の通年公開が行われています。仙洞御所も事前申請に加えて当日受付にて参観可能です。

公開・参観日：通年、ただし月曜日（祝日の場合は翌日）年末年始、行事等の実施のため支障のある日は休み。

お問合せ：宮内庁京都事務所 ☎075-211-1215

京都迎賓館一般公開

日本の伝統文化を象徴する京都で、海外からの賓客をお迎えし、日本への理解と友好を深めていただくための国の迎賓施設です。

公開日：迎賓館のホームページでご確認ください。

参観料金：大人1,000～1,500円 中高生500～700円

お問合せ：迎賓館京都事務所 ☎075-223-2302

京都御所 宮廷文化の紹介〈平成30年秋〉

平成29年11月に行われました、宮廷文化の魅力を紹介する秋の特別イベントを今年も開催する予定です。

期間、公開時間などの詳細については、宮内庁ホームページをご覧ください。

お問合せ：宮内庁京都事務所 ☎075-211-1215

明治維新150年記念 連続講座（事前申込制）

京都御苑やその周辺が舞台となった明治維新に関する歴史をテーマとした連続講座です。

日時：9月26日(水)特別講座「幕末の京都～都市、人口、藩邸など」
10月24日(水)「大学発祥の地 京都御苑」
11月28日(水)「京都御苑内ウォーキングツアー」
13:30～(60～90分程度) 受付13:00～

場所：閑院宮邸跡収納展示館レクチャーホール

申し込み・問合せ：環境省京都御苑管理事務所

☎075-211-6348（平日のみ、9:00～17:00）

*申し込み開始日などホームページでご確認下さい。

京都モビリティウィーク&カーフリーデー2018

過度にクルマに依存しないライフスタイルの創出を目指す世界的な取組みのイベントを今年も開催します。（京都御苑会場）

●トークイベント「京都から考える成熟期の都市戦略2030」

日時：平成30年9月15日(土) 14:00～16:45

場所：閑院宮邸跡収納展示館レクチャーホール

内容：基調講演・情報提供・トークセッション

参加：定員60名(9/14まで申込順)・参加費無料

主催：京都市/京都カーフリーデー実行委員会

申し込み・問合せ：京のアジェンダ21フォーラム事務所

☎075-647-3535 FAX:075-647-3536

京都御苑秋の自然教室

日時：平成30年11月18日(日) 9:30～12:00

受付：9:00～9:20

集合：富小路口(御苑南東 地下鉄丸太町600m)

講師：京都自然観察学習会の先生方

内容：秋の御苑の植物、きのこ、昆虫や野鳥の生態を観察します。

参加費：100円(保険代)

その他：筆記用具、雨具・水筒の準備、野外活動に適した服装でご参加ください。

*当日7:00時点で気象警報が発令されている場合など、やむなく中止する場合があります。



京都御苑子ども「きのこ」教室

日時：平成30年11月11日(日) 10:00～12:00

受付：9:30～

集合：閑院宮邸跡東門前

講師：京都自然観察学習会 佐野修治先生

内容：秋の御苑のきのこを親子で観察しましょう。

対象：3歳～小学生の親子2名、30組(先着順)。

申し込み・問合せ：9月10日(月)より電話にて受付

国民公園協会京都御苑 ☎075-211-6364

■苑内利用施設・サービスのご案内

閑院宮邸跡収納展示館

京都御苑南西角の旧閑院宮邸跡地に建つ公家屋敷の風格残る旧宮内省建物の遺構。収納展示室では京都御苑の歴史や自然が学べます。(無料)

●特別展示開催中～激動の幕末・維新と京都御苑の誕生～ 場所：レクチャーホール

*都合により休止になる場合があります。

開館時間：9:00～16:30(入場は16:00まで)

休館日：月曜日(祝日は開館)、年末年始

アクセス：間ノ町口すぐ(御苑南西角)

拾翠亭(茶室)

五摂家の一つであった九條家の遺構で江戸時代後期に建てられた九條家別邸。

公開日：毎週木・金・土曜日、葵祭、時代祭 9:30～15:30 参観料 100円(高校生以上)

貸切利用：茶会、句会、謡曲等の会合にご利用できます。利用料については協会にお問い合わせください。

休憩所(レストハウス・売店)

休憩やお食事・喫茶にご利用ください。京都御苑オリジナルのお土産物を多数揃えています。

営業時間：9:00～16:30

中立売南休憩所(御苑西側中立売御門南すぐ)

軽食・喫茶(ハンバーガー、ハヤシライスなど)。

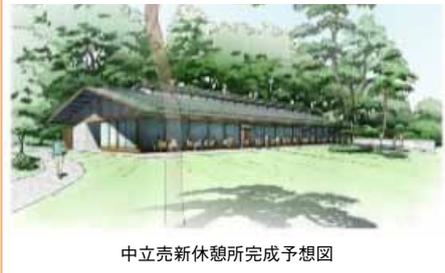
中立売南休憩所+PLUS(南休憩所に隣接)

食堂(各種定食など)、売店(京みやげ)

—中立売地区再整備工事のお知らせ—

再整備工事に伴い、中立売南休憩所・中立売南休憩所+PLUSは2018年10月初旬で閉店させていただきます。長らくのご愛顧誠にありがとうございました。

現在建築工事中の新休憩所のオープンは2019年1月の予定です。



中立売新休憩所完成予想図

富小路休憩所(御苑南東富小路口すぐ、テニスコート隣接)軽食・喫茶、菓子等の販売。

駐車場

料金：乗用車500円 バス1,300円(最初の3時間)

中立売御門西駐車場(乗用車、バス)

入場 7:40～19:30 出場 24時間

—中立売御門西駐車場出入口変更のお知らせ—
再整備工事に伴い、駐車場出入口を中立売御門から蛤御門に変更(2019年1月初旬頃までの予定)。進入は、鳥丸通を南下して左折のみとなります。

清和院御門東駐車場(乗用車専用)

入・出場 8:40～20:00(20:00以降閉鎖)

運動施設

富小路テニスコート(5面) 有料

富小路広場(6面)／今出川広場(3面) 有料

軟式野球・ソフトボールなどにご利用ください。

申し込み：国民公園協会京都御苑

京都御苑Instagram/Twitterで紅葉情報をチェック!



@kyotogyoen_info



@gyoen_info

会員募集(2018年度)のお知らせ

2018年度(2018年1月～12月)の国民公園協会京都御苑会員を募集します。

■年会費

●普通会員……………1,000円以上

●賛助会員(会社・団体)

……………10,000円以上

■会員特典

1 京都御苑ニュースの送付

2 葵祭及び時代祭の観覧席招待券の進呈(ただし普通会員は会費4,000円以上の方に限ります。)

■申し込み・お問合せ先

(一財)国民公園協会京都御苑



編集後記

明治150年を記念して前3号にわたり御所・御苑の歴史を振り返ってきた。奈良県立大の井原准教授によれば昭和30年代の整備が今日の「御苑」に新たな価値をつけ加えた。伝統文化と開放性のバランスこそが肝要か。(発行人 池田善一)

企画・発行/お問合せ先

一般財団法人 国民公園協会 京都御苑

〒602-0881 京都市上京区京都御苑3

TEL 075-211-6364

編集

白川書院

監修

環境省京都御苑管理事務所



注: 本誌は環境省の環境配慮型紙を使用しています